

仮称)上野方地域複合施設整備に係る基本理念と基本方針

1. 基本理念について

ありその海を見わたせる、上野方地域住民の誇りである景観を活かし
だれもが気軽に立ち寄れる
人が集まる、居心地が良い、また来たくなる
地域の絆を結び、
地域の安全を支え、
多様性を認め合う地域共生社会を育む
上野方地域のシンボルとなるコミュニティ施設

(補足)

新しい施設は、144 年間という永きにわたって地域住民の心のよりどころであった、上野方小学校を解体した跡地を活用して整備するものであり、その校歌の冒頭に歌われ、また、上野方地域のキャッチフレーズともなっている「ありその海を見わたせる」という、地域住民の誇りである唯一無二の「景観」を活かした、地域の象徴的な施設であるとともに、地域の内外を問わず多様な人の居場所となること、また、コミュニティセンターを中心とした「小規模多機能自治」、消防団詰所と連携した「地域防災」、コミュニティカフェを核とした「地域共生社会実現」の3つの活動拠点となるものであり、目指すべき姿としての基本理念を定めたもので、魚津市の社会福祉事業において重要なパートナーである、魚津市社会福祉協議会の、今後の事業活動の充実を図る施設とすることを目的とするとともに、上野方地域住民にとって、失われた小学校に代わる、地域の新たな誇りとなり、未来にわたって誰からも愛される施設になってほしいという強い希望がその根底を成しています。

2. 基本方針について

基本理念を踏まえ、次の5つの基本方針を定めることとします。

基本方針 1

地域の誇り「ありその海を見わたせる」上野方の景観を活かした施設

解体された旧上野方小学校校歌の冒頭にも歌われている「ありその海を見わたせる」景観は地域住民の誇りであり、上野方地域のキャッチフレーズにもなっている。新しい施設は、地域のシンボルとなるコミュニティ施設を目指すことから、地域資源である美しい景観を活かす施設とします。

基本方針 2

オープンで居心地が良く、多くの人々がつながることができる施設

地域の内外を問わず、子ども、若者、高齢者、障がい者などあらゆる人々に利用される施設とするため、バリアフリーであることはもとより、利用者の視点に立ったわかりやすく使いやすいレイアウトとします。また、デジタル技術を取り入れ、新たな地域住民ネットワークの中心的施設となるとともに、多くの人々が気軽に集い、新たな人を呼び込み、人と人、人と地域が丸ごとつながれるよう、オープンで居心地の良い施設とします。

基本方針 3

災害に強く、地域の安心・安全を守る施設

地域住民の安心・安全を守るため、災害時においては地域の避難所、また、魚津市社会福祉協議会が災害救援ボランティアセンターを設置・運営することから、生命・身体を守るほか、一時的な生活場所の提供、情報通信手段の確保、衛生環境の整備など、地域防災拠点としての機能を有する、災害に強い施設とします。

基本方針 4

周辺の景観に配慮し、かつ、環境にやさしい施設

上野方地区の景観、また、周辺施設と調和のとれた外観となるよう配慮するとともに、温室効果ガス削減を考慮した再生可能エネルギー導入可能性を検討し、省エネルギー性能の向上を目指すなど、環境負荷の低減と維持管理コストの縮減を図ります。

また、オープンなフロア空間やゆとりある設備スペースを確保し、将来の設備改修・更新にも柔軟に対応できるようにするなど、長寿命化を前提とした施設とします。

基本方針 5

「地域共生社会」実現に寄与する施設

子ども、若者、高齢者、障がい者などあらゆる人々が地域、暮らし、生きがいをともに創り、高めあうことができる「地域共生社会」の実現に向けて、従来の「支え手」と「受け手」という関係を越えて、住民や企業・団体などあらゆる主体が、つながりの意識を深め、お互いに支え合う地域づくりを進めなければなりません。

この施設が「地域共生社会」実現のための一端を担えるよう、多様な人々が「つながる」仕掛けを創出する施設とします。